

をる、き丁をよほうにさしたるもたんれうなり、き丁のすみをば、くら人五ひとりあはせてる、近代はまもつかひさ、すごせのさしたるなり、まもつかひもわらはのつぎにたゝるなり、

〔江家次第十一〕五節帳臺試

時刻五節舞姫參入於玄輝門下車公卿束帶相從、諸大夫四人執几帳角、殿上人付童女シモツカヒ傳等如例、中略舞姫等次第參入舞殿戸、先童女一人持火取、次童女一人持茵、次舞姫、下仕等取几帳三童入戸即歸、次茵童敷茵居帳下、次舞姫居茵上北面上、次几帳一本立、其後早歸

〔江家次第十二〕齋王群行

次齋王入自嘉喜門御前并寮頭助相扶、内侍及乳母二人、侍者二人、童女四人從之、近代女房三人、執几帳、祇候之、○中略  
關司開戸、齋王入自同戸、著座著羅地摺袷、袖同目染、著玉鬘、依未成人不可上、髮給歟、又御乳白被申、而長曆并延久御記如此、○中略

次以頭藏人召齋王、召寮頭、仰之、主殿司等前行、寮官引御輿、到殿北面東戸下、於階上駐御輿、關司開戸、捧几帳之者二人相從、

〔中務内侍日記〕十二月○弘安十、大原の、まつりなり、○中みやにまいりつきぬれば、辨しやうけいつきてことどもをこなふ、木丁さして御まへにまいりてみれば、○下

〔倭名類聚抄屏障具〕行障 唐鹵簿令云、行障六具、

〔箋注倭名類聚抄屏障具〕通典、皇太后皇后鹵簿有行障六、即其事也、雲溪友議、載唐陸暢詠行障詩云、碧玉爲竿、丁字成、鴛鴦繡帶短、長香強遮天上花、顏色不隔雲中笑、語聲、

〔伊呂波字類抄加雜物〕行障カウシヤウ

〔名目抄裏服カウシヤウ〕行障同上○天子大

〔類聚名物考調度〕五、行障

行障